

湖北工業 (コード 6524)

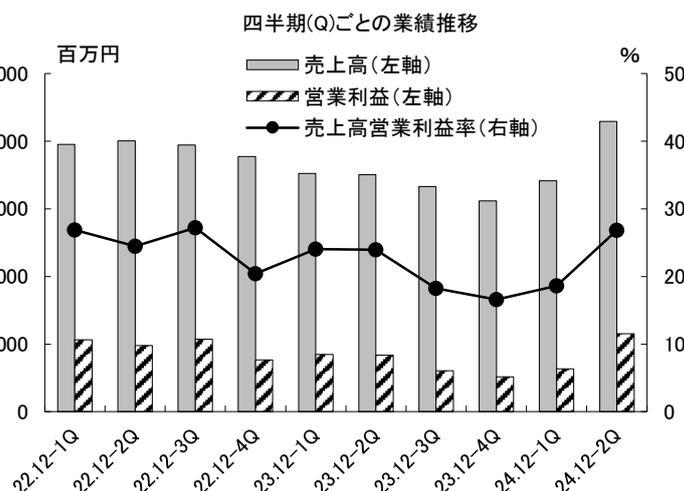
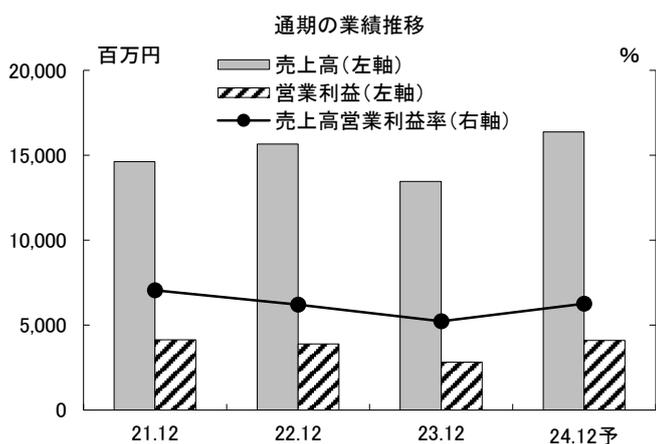
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (株式分割を考慮)

決算期	売上高	営業利益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	6,998	2,072	68.7	0.0	889	▲172	▲804	3,563
22.12	7,958	2,042	68.6	0.0	1,197	▲553	▲1,422	10,496
23.12	7,023	1,686	49.8	0.0	1,510	166	▲1,044	10,139
24.12	7,707	1,788	66.4	0.0	1,710	▲311	▲1,276	10,865

◆通期業績推移(連結) (株式分割を考慮。24.12 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	14,620	4,126	135.6	18.3	3,032	▲406	4,564	10,951
22.12	15,673	3,884	115.4	18.3	2,755	▲1,949	▲2,585	9,362
23.12	13,472	2,812	70.6	20.0	3,577	▲1,033	▲1,577	10,439
24.12予	16,376	4,098	112.8	23.0	-	-	-	-

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



24年12月期中間期の業績概況…24年12月期の中間期(24年1~6月)は、リード端子事業は増収減益となった一方、光部品・デバイス事業が好調に推移し、売上高は前年同期に比べて約10%、営業利益も約6%それぞれ増加。特に、第1四半期(同年1~3月)に比べて第2四半期(同年4~6月)に売上高、営業利益及び売上高営業利益率が大きく伸長した。

当期の売上高は77億700万円(前年同期比9.7%増)、営業利益は17億8,800万円(同6.1%増)、経常利益は27億5,300万円(同26.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億9,100万円(同33.3%増)となった。セグメント別売上高は、リード端子事業40億8,600万円(同7.8%増)、光部品・デバイス事業36億2,100万円(同12.0%増)に、セグメント別営業利益は、リード端子事業1億1,900万円(同24.3%減)、光部品・デバイス事業16億6,900万円(同9.2%増)となった。

リード端子事業においては、車載市場向けでは、今夏以降の自動車メーカー各社の増産体制構築に備えハイブリッドコンデンサ向けの受注が回復傾向に。情報通信機器市場向けでは、ステイホーム需要の反動による調整から、企業におけるIT需要の拡大などプラス成長への転換の兆しがみられるようになった。当期の売上高営業利益率は2.9%(前年同期4.2%)に低下したものの、営業利益は第1四半期の赤字から第2四半期には黒字に浮上し、利益改善が進んでいる。

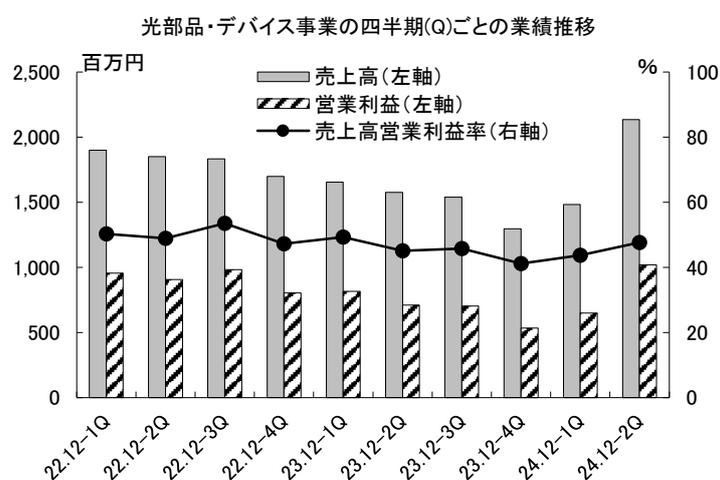
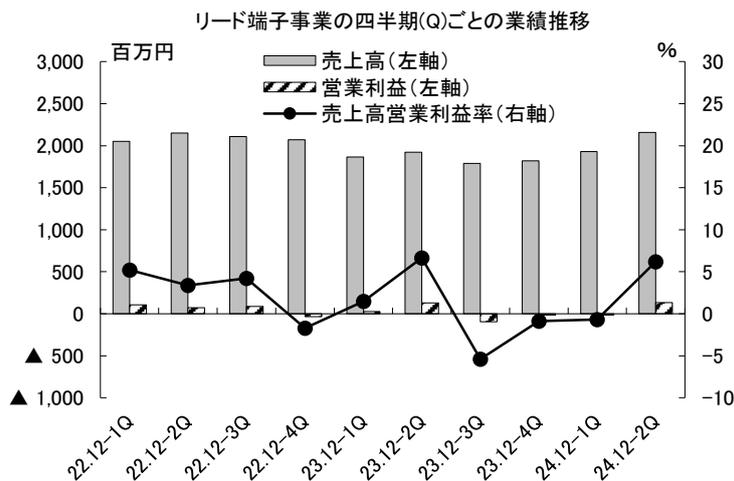
光部品・デバイス事業においては、昨年からの海底ケーブルプロジェクトの延期などの影響に

よる調整が一巡。世界的な通信インフラの中長期的な強化の流れを背景に新たなプロジェクトが発表されるなど、先行きへの明るい兆しも見られ、海底ケーブル向け光デバイス製品の受注が回復。当期の売上高営業利益率は46.1%（前年同期47.3%）に低下したものの、第1四半期の43.7%から第2四半期には47.7%に向上してきている。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当中間期末現在の現金及び現金同等物残高は108億6,500万円（前年同期末比7.2%増）となった。営業活動によるCFは、税金等調整前中間純利益27億5,300万円（前年同期比28.2%増）、減価償却費4億5,900万円（同23.1%増）、売上債権の増加額11億3,100万円（前年同期は減少額3,600万円）、法人税等の支払額3億5,000万円（前年同期比38.7%減）などにより、17億1,000万円の収入（同13.2%増）になった。投資活動によるCFは、定期預金の払戻による収入3億100万円（同70.8%減）、有形固定資産の取得による支出4億400万円（同49.0%減）、無形固定資産の取得による支出1億3,700万円（同31.7%増）などにより、3億1,100万円の支出（前年同期は1億6,600万円の収入）に。財務活動によるCFは、長期借入金の返済による支出3億6,900万円（前年同期比1.9%減）、短期借入金の純減額2億9,400万円（同180.0%増）、配当金の支払額5億3,900万円（同9.1%増）などにより、12億7,600万円の支出（同22.2%増）になった。

24年12月期の通期業績見通し…24年12月期の通期については、売上高163億7,600万円（前期比21.6%増）、営業利益40億9,800万円（同45.7%増）、経常利益46億3,700万円（同47.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、当期純利益）30億4,500万円（同60.0%増）の見通しで、中間期の好調を受けて24年2月8日付けの会社側発表値（売上高145億3,600万円、営業利益32億4,300万円、経常利益32億8,400万円、当期純利益21億3,600万円）から増額修正されている。

セグメント別予想において、リード端子事業は、売上高84億5,600万円（同14.3%増。修正前78億6,800万円）、営業利益2億7,200万円（同508.4%増。修正前2億5,700万円）。また、光部品・デバイス事業については、売上高79億2,000万円（同30.4%増。修正前66億6,700万円）、営業利益38億2,500万円（同38.2%増。修正前29億8,600万円）となっている。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。